

令和4年度からの国際共同利用・共同研究拠点一覧(国立大学が中核の拠点)

(令和3年10月29日現在)

通し番号	大学等名(研究施設名)	国際共同利用・共同研究拠点名	研究施設の長の氏名	研究分野 <sup>(※)</sup>	国際共同利用・共同研究拠点の概要 <sup>(※)</sup>	認定期間
1	東北大学(金属材料研究所)	材料科学国際共同利用・共同研究拠点	古原 忠	広範な材料科学、物質科学およびそれらの融合領域を対象とする基礎・応用両面にわたる総合的研究	材料科学分野の世界的研究拠点として総合的な国際共同利用・共同研究を実施し、材料科学分野における日本の国際競争力強化と国際的に認知される若手人材の育成を図る。具体的には、強磁場施設や材料照射施設をはじめとする研究施設の共同利用の促進、国内研究者と海外研究者が共同するブリッジ型課題制度の展開、ネットワークを生かした海外との連携強化を通じた人材育成および産業界との連携を推進する。これら取組みを通じて、国内・国外の研究者・機関を結合した材料科学分野の国際的な協業体制であり、研究のハードウェア(施設・設備)とソフトウェア(知識・概念・経験・運営手法)の両面を共有するマテリアルリサーチオープンアライアンス(MAterials Research Open Alliance、MAROA)を形成し、国際的な頭脳循環のハブとして材料科学分野を先導する。	令和4年4月1日～ 令和10年3月31日
2	東京大学(医科学研究所)	基礎・応用医科学の推進と先端医療の実現を目指した医科学国際共同研究拠点	山梨 裕司	基礎・応用医科学	本拠点は、国立大学附置研で唯一の附属病院と、生命科学分野国内最大のスーパーコンピュータ、先端研究に対応可能な機器類を備えた多数のコラボラトリー等を擁し、医科学領域に必要な研究体制を整備している。同時に、数多くの海外研究機関との連携によりグローバルなネットワークを構築し、世界最先端レベルの優れた研究成果を継続的に生み出してきた。今後も次世代の医科学研究に必須な研究環境を継続的に拡張・強化し、共同利用拠点として広く国内外の研究者に開放する。また、本拠点では感染症、がん、加齢性疾患、ゲノム、再生・細胞医療、遺伝子治療など幅広い生命医科学の基礎研究と、そこから派生する医療への橋渡し研究を、国際共同研究として推進する。海外研究者の招聘を積極的に行い、海外・国内双方向性の国際共同研究の場を構築し、本拠点が国際共同研究のハブとして海外研究機関と国内研究機関からなる国際共同研究を推進する。以上の取組みを通して、日本全体の医科学分野の研究水準の向上とともに、医科学分野において国際的に活躍する若手研究者の育成に貢献する。	令和4年4月1日～ 令和10年3月31日
3	東京大学(宇宙線研究所)	宇宙線国際研究拠点	梶田 隆章	宇宙線・素粒子・宇宙物理学	宇宙線物理学における世界の中核研究機関として、宇宙物理及び素粒子のフロンティアを拡大するとともに、大型の光学望遠鏡やX線衛星では観測できない天体の深部における物理現象を、高エネルギー宇宙線・ガンマ線、ニュートリノ、重力波などによって解明して行く研究を国際的な共同利用・共同研究体制により行う。これらの研究はこれまでも提供してきた大型観測装置と将来に建設を計画している装置によって行われる。これらの装置・施設の建設費はおおむね大学の一研究科で担える予算規模を超えており、いずれも国内外の宇宙線研究者の参加を得て企画・実行されてきた。本拠点では複数の国際研究プロジェクトを推進し、国内外の関連分野研究者との積極的な人的交流を行い、共同利用研究者、さらに海外からの研究者へのサポートを拡充させ、世界の宇宙線研究のハブ組織として発展する。また国内外から参加する大学院生に最先端の宇宙線研究を経験できる場を提供し、かつ国内外から若手研究員を雇用することにより、若手研究者の育成にも大きく寄与する。	令和4年4月1日～ 令和10年3月31日

令和4年度からの国際共同利用・共同研究拠点一覧(国立大学が中核の拠点)

(令和3年10月29日現在)

通し番号	大学等名(研究施設名)	国際共同利用・共同研究拠点名	研究施設の長の氏名	研究分野 <sup>(※)</sup>	国際共同利用・共同研究拠点の概要 <sup>(※)</sup>	認定期間
4	京都大学(化学研究所)	化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際グローバル研究拠点	辻井 敬亘	化学	本拠点では、化学関連の広範な分野をカバーする化学研究所が蓄積してきた学術的知見・先端的設備・グローバル連携実績に基づき、国内外の関連研究者を巻き込む国際共同利用・共同研究を一層促進する。具体的には、海外／国内研究機関の連携を担保する国際的ハブ機能を担い、化学を中心とする研究分野の深化と国際境界学術分野の新規開拓に取り組む。共同利用・共同研究課題として、分野選択型(基幹分野+特定分野)、課題提案型、連携・融合促進型、施設・機器利用型の課題を毎年公募し、国際枠を設定してグローバルに推進する。併せて、このグローバル連携プラットフォームを活用して、国際的視野をもつ若手研究者の育成を図る。本拠点活動を通して、「化学関連学術の深化・展開」、「次世代研究リーダーの誕生」、「基盤的研究成果の社会還元」が加速されると期待される。	令和4年4月1日～ 令和10年3月31日
5	京都大学(数理解析研究所)	数学・数理科学の国際共同研究拠点	熊谷 隆	数学・数理科学	数理解析研究所は、数学・数理科学分野における「全国共同利用研究所」、「共同利用・共同研究拠点」の活動を経て、2018年11月から、国内外の研究機関のハブとして国際共同研究を牽引し、我が国の研究力を強化することを目的とする「国際共同利用・共同研究拠点」として活動を開始した。従来の共同利用・共同研究拠点の機能を拡大・強化することにより、数学・数理科学分野及びその関連分野の研究者に、国際的な共同研究活動を支えるための基盤を提供し、優れた研究成果に繋げることを目的としている。各研究者には、5つの拠点事業種目【RIMS共同研究(グループ型)、RIMS共同研究(公開型)、RIMS長期研究員、RIMS合宿型セミナー、RIMS総合研究セミナー】と有力研究者の中長期滞在と組み合わせて行う「訪問滞在型研究」を用意し、国際共同研究の推進や次世代の若手研究者の育成を目指す。これらの活動により、若手研究者が国内だけでなく世界の研究者と連携することが可能となり、未解明の問題や未来の課題の解決に繋がるものと期待される。	令和4年4月1日～ 令和10年3月31日
6	大阪大学(核物理研究センター)	国際サブアトム科学研究拠点	中野 貴志	原子核、素粒子、宇宙線および宇宙物理に関する実験と理論	本拠点は、サイクロトロン加速器や精密測定器をはじめとする大型設備や先端設備を用いた共同研究・共同利用により、原子核構造や反応という原子核物理学固有の研究は元より、宇宙の物質生成や質量の起源の解明、星中の元素合成といった基礎的な研究分野に加え、放射性同位体の医学利用や加速器科学の工学応用など、幅広い分野で最先端研究を推進する。本拠点活動により、量子色力学(QCD)に基づく原子核およびハドロン物理学の階層を超えた統一的理解を目指すとともに、異分野融合によるイノベーションの創出やそれを支える人材の育成に貢献する。	令和4年4月1日～ 令和10年3月31日